

第 4 回 氷見市総合計画審議会 会議録

日 時	平成23年12月5日（月）13時30分から15時48分まで	
場 所	氷見市役所 第2・第3委員会室	
出席者	委員	石出会長、前田副会長、上野委員、大引委員、小川委員、川上委員、久保委員、越田委員（代理出席：竹岸氷見市小中学校PTA連合会長）、竹内委員、田中委員、土居委員、中川委員、中本委員、西野委員、姫野委員、本川委員、松波委員、松原委員、森委員、森本委員、山岸委員、横山委員（出席22名） （欠席7名）
	市	堂故市長 策定委員会（棚瀬副市長、前辻教育長、定塚企画振興部長、金谷総務部長、宮本市民部長、江添建設農林部長、西塚総務部防災・危機管理監、七瀬会計管理者、野議会事務局長、山崎教育委員会理事・教育次長、有島消防長） 事務局（桶元企画政策課長、外6名）
次 第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 議 事 (1) 重点プロジェクトの取組み（案）の検討について (2) 基本計画（案）の検討について (3) 事務連絡 5 閉 会	
資 料	資料1 第8次氷見市総合計画重点プロジェクト（案） 資料2 第8次氷見市総合計画重点プロジェクト（案）取組一覧表 資料3 第8次氷見市総合計画基本計画（案）の概要 資料4 第8次氷見市総合計画施策体系（案）	

1 開 会

[事務局]

- ・ 定刻となったので、只今から第4回氷見市総合計画審議会を開催する。
(欠席者等について事務連絡)

2 会長あいさつ

[会長]

- ・ 本日、総合計画審議会の第4回目の会議となる。師走に入り、皆様方には何かと大変ご多忙の中出席いただき、感謝申し上げます。
- ・ この審議会の第1回目は、今年の1月であった。それからほぼ1年になるが、この間、全体会議を3回開催するとともに、3部会を設置し、専門的に掘り下げた熱心な審議がなされた。
- ・ 基本構想の策定作業と平行して、市当局では、外部の関係団体、関係者との意見交換、意見調整をしながら、総合計画づくりが進められてきた。この作業は、まだ続くと考えている。
- ・ 本日は、基本計画と重点プロジェクトを審議いただく。基本計画は基本構想という全体のコンセプトに基づき、どういう施策を進めていくのかという方向性や取組みを具体化するものである。また、重点プロジェクトは目指す都市像を実現するために、特に重点的かつ戦略的に取り組むべきテーマとそれに必要な事業によって構成され、この両者は総合計画の中核となるものである。
- ・ 本日は、この2つに集中した審議をお願いするもので、この計画策定の作業もいよいよ大詰めの段階となっている。委員のご尽力、ご協力で審議いただき、原案がより肉付けされ、氷見の名産「ひみ寒ぶり」に匹敵するような、全国ブランドの内容となるようブラッシュアップしていただければ幸いである。
- ・ 本日の資料は、皆さんの手元にあらかじめお届けして内容もご覧いただいていると思う。本日は忌憚のないご意見を賜りたく、よろしくご審議いただきたい。

3 市長あいさつ

[市長]

- ・ 師走に入り、何かと気ぜわしくなっているが、石出会長、前田副会長、委員の

皆様には何かとご多用のところ審議会に出席いただき感謝申し上げます。

- ・平成23年も残すところ1か月を切ったわけであるが、今年を振り返ると3月11日に大震災が発生し、日本全体が厳しい局面に立たされた。改めて、安全・安心であること、お互いに助け合う社会であることの大切さを再認識させられた。
- ・本市については、9月に懸案であった市民病院が竣工した。また、北大町の埋立地の活用は大きな課題であったが、まちづくり会社が立ち上がり、来年10月オープンに向け、食と健康の殿堂として詰めの段階に入っている。そして、市民の皆さん、市内に立地する企業の皆さんの協力により、市政が着実に進められた年でもあった。
- ・前回の審議会では、第8次総合計画の基本構想の中でも中心を成す、まちづくりの基本理念及び施策の大綱などについてご審議いただいた。本日は、来年度からの10年間に重点的・戦略的に取り組む重点プロジェクトと平成24年度から平成28年度までの5年間の前期基本計画について、ご審議いただきたい。
- ・重点プロジェクトには、「防災・安全ネットワークの構築」や「1町19ヶ村の地域力発揮・向上」、「300万人交流推進」、「食のブランド創造・発信」など10のプロジェクトが示されている。
- ・防災対策を強化して市民の安全を確保すること、また心理的にも安心して住んでいただくこと、住民同士が助け合い、温かみと感謝の念で暮らすことができる地域づくりを進めること、食を全国ブランドへと発展させ交流人口を拡大して市内全域に賑わいを創造することなどが大変大切だと思っている。重点プロジェクトには、それらを実現するための具体的な事業が盛り込まれている。
- ・委員各位には、積極的なご意見をいただくとともに、ご審議をお願いしたい。

4 議 事

[会長]

- ・本日の会議の終了時刻は15時半の予定である。本日の会議も前回同様、原則公開とし、写真撮影を行い、議事内容を市ホームページ、広報誌等で公表する。
- ・本日の会議の定足数であるが、規約上の29名の半数以上の委員の出席がある

ので、有効に成立している。

(1) 重点プロジェクトの取組み（案）の検討について

（事務局より、「資料1 第8次氷見市総合計画重点プロジェクト（案）」及び「資料2 第8次氷見市総合計画重点プロジェクト（案）取組一覧表」の説明）

[会長]

・（資料2については、）参考資料ということで、第1の議題の事務局からの説明は以上である。それでは、ご質問、ご意見等何なりと。

[委員]

・資料1の11ページ「近説遠来」の漢字はこれであっているのか。広辞苑には載っていない。どういう意味なのか。

[事務局]

・「近説遠来」は論語の一説にある。「近きものよろこべば、遠方より人きたる」ということで、総合計画に例えると、市民が悦んでいる様子を見て、外からも多くの人に訪れていただけるまちという意味で使用している。論語ではこの「説」という字を用いている。

[委員]

・資料2のハードとゼロの◎や◆の意味を教えてください。

[事務局]

・（資料2は）参考資料ということで見ているが、ハードはものを作り出すハード事業。ソフト事業の対語。ゼロというのは予算を付けないが、マンパワーと企画力、知恵と創意工夫でやっていく事業である。

[委員]

・◆は単純に予算なしの企画でよいのか。

[事務局]

・◆はそのとおり。

[委員]

・◎はよくできたという意味ではないのか。

[事務局]

・◎は単純にものを作り出すハード事業に印を付けたもので、ものの良し悪しをいうものではない。

[委員]

- ・ 資料1の11ページ「300万人交流推進プロジェクト」とあるが、第7次
のときは「200万人」であったのに、人口減少にあつて「300万人」に
増えたというのは、書いただけの目標にならないか。また、今年200万人
来たのかどうか教えてほしい。
- ・ 論語の漢字のこともあつたが、いろいろ横文字が多い。「リソース」は「資源」
とは書かないのか。「ホスピタリティ」は「あたたかい」の方がわかりやすい。
- ・ 「防災・安全ネットワーク」というが、防災のことが言われているにも関わらず、
5億の予算で北大町の海岸のところに会社が施設を作るとするのは、本当に安
全なのか。

[事務局]

- ・ 手元に資料がないが、現在、観光客は180万人台を記録しており、200万
人台が手の届くところにきている。能越自動車道が延伸し、平成26年には北
陸新幹線の開業が控えている。300万人は、川崎市等の首都圏との交流とい
ったビジネスチャンスを手掴んで飛躍につなげていきたいという意気込みである。
その中核が北大町における食文化発信施設であり、温泉を活用した施設等であ
る。
- ・ 横文字が多いので、わかりやすい表記に努めていきたい。英語表記については、
ニュアンスによって、意味が変わるようなら、注釈をつけて対応したい。
- ・ 北大町の施設を心配していただいているが、高波等への防災面の対応について
は、県や国にもお願いし、対策が講じられるものと思っている。

[会長]

- ・ カタカナ語は、各自の取り方が違うので、私も極力日本語でお願いしたい。

[委員]

- ・ 質問というより提言がある。11ページの「インバウンド観光の促進」という
ことで「外国人旅行者の誘致促進と観光案内等の多言語化の推進」とあるが、
観光旅行で外国へ行って日本語があると外国に来た気分が削がれる。重要な
のは警察や病院はどこですよという本当に困ったときの標記で、観光案内など
の母国語はありがたいが、せつかく外国に来たのにも思う。観光案内はお金も
かかることなので、むしろ氷見らしさ、日本らしさで勝負したほうがよい。観

光は人と人との出会いであり、優しい言葉ひとつでまた行きたくなる。

[企画振興部長]

- ・昨今、立山アルペンルートには100万人の観光客が来ているが、その10%あまりが台湾や韓国から来ている。こちらではすべてを台湾語や韓国語で書くのではなく、大事なところやパンフレットを用意するという意味である。日本や氷見を味わいたいという、雰囲気などを損なわないようにしたい。

[委員]

- ・重点プロジェクトは、資料1に書かれているものは全部予算が付くという理解でよいのか。

[事務局]

- ・基本的にはそうだが、一覧表にもあったがゼロ予算、マンパワーでやるものもある。財政的に厳しい状況は続いているが、予算にメリハリをつけて、選択と集中によって確保したい。

[委員]

- ・資料1の重点プロジェクトの中にも、予算がつかなくてもマンパワーでやるものもあるのか。

[事務局]

- ・例えば2ページ「災害時要援護者の支援プランの策定」などは、予算の裏づけがなくてもマンパワーでやっていくものである。資料1の中にもピックアップすればそういったものは出てくることになる。

[委員]

- ・多言語化の推進について、ピクトグラムだけでも海外の観光客には必要である。外国人に案内板の場所を聞かれて教えた際に、場所がわかりにくいと言われた。交流人口を増やすには外国人の人数を増やすのも重要になってくる。
- ・交流人口を100万人増やすのは難しく、市民協力が必要である。「近説遠来」は想像が難しく、イメージが浮かびにくい。わかりやすいキャッチコピーがあれば、交流人口を増やそうという意識も高まるのではないか。

[市長]

- ・「近説遠来」は私が言い出した言葉で、論語の一説であり、イメージとしては、まちづくり100人衆など、個性的なまちづくりを進めるリーダーの皆さんで

共有する言葉で、近き者が悦ぶようなまちづくりを進めないと外からの価値観に耐えないという思いで使っている。もっと市民にわかりやすい言葉が適当だと思うので、注釈を付けるなり、直すなりしたい。

[委員]

- ・最近、気になる言葉で「一つ目小町」という言葉がある。東京などで急行が止まらず、鈍行で行ける町という意味であるが、氷見は観光客にとって、ゆっくり回る町である。近くに和倉温泉や五箇山もあるし、その中心にある氷見市は「一つ目小町」という、あたたかいまちづくりというのがみんなに伝わればよい。

[市長]

- ・北大町に食と健康の施設ができるが、氷見や高岡の味を一番知っている人が良いと思うものなら、中・遠距離の人も来てくれるというイメージが出せるとよいと思っている。氷見の人が感謝の気持ちを持って暮らすまちづくりを進めれば、よその人も来ていただけるまちになると思うので、できるだけ心が伝わるようなフレーズを研究したい。

[会長]

- ・これらに関連するものが「目指す都市像」で、これからの大きな宿題である。皆さんの知恵を拝借して、わかりやすくイメージにぴったりの表現ができたと思う。これらの意見を参考にしたい。

[委員]

- ・「防災・安全ネットワーク構築プロジェクト」を拝見したが、天災にかかる対策がほとんどで、犯罪や人災にかかる対策が入っていない。あえて抜かれたのかとも思うが、防犯ボランティアへの支援や防犯住宅への支援など、県でも支援は行っているが充分ではなく、市からの支援も必要である。いつ起こるかわからない天災の備えと今日明日にも起こる犯罪の対策はどちらも重要である。防犯を重点に入れられないか。独居老人の振り込め詐欺防止のために民生委員に回っていただくというやり方もあると思う。

[事務局]

- ・決して防犯に関わることを軽んじているわけではなく、今後、高齢者や子どもに対する犯罪の事案が増えていくことを思うときに大切な取り組みという認識

である。今回プロジェクトをまとめる過程で地震、津波等の自然災害や原子力災害等に重きを置いた。交通安全対策や防犯対策、消費者保護は基本計画に織り込んでいきたい。

[会長]

- ・ 前回ご審議いただいた施策の大綱の暮らしづくりの項目の「安全で安心につつまれた生活の確保」の中に、防災とともに防犯も出てくる。施策の大綱は即基本計画につながっているが、重点プロジェクトもこれにつながっている事柄なので、意見を踏まえて表現等検討していただけたらと思う。

[事務局]

- ・ 会長から指示をいただいたので、検討したい。

[委員]

- ・ 「ふるさと教育・地域リーダー育成」のプロジェクトの中の、氷見高校でのHIMI学の推進であるが、進学や就職の近い時期にふるさと教育をやる意味は何か。
- ・ なぜ、ここへきて地域リーダーの育成をやるのか。雇用の場の拡充に尽きると思うが、あえて地域リーダーと書かれているのはどうしてか。
- ・ 11ページに映画の誘致があったが、来年以降の映画のビジョンをどう考えているのか。

[事務局]

- ・ HIMI学については、既に氷見高校の授業の中で取り組んでいる。氷見の自然、歴史、産業、文化などあらゆる分野からピックアップして、ふるさとへの愛着を高めるために実施されている。
- ・ 地域おこし、地域のために行われる活動には、推進してくれる強力なリーダーが不可欠である。市長のまちづくりふれあいトークでいろいろ現場を見て参考になったが、地域のことに熱心な人がいるから、地域あげての取り組みになっている。

[企画振興部長]

- ・ 映画祭については、今フィルムコミッションで考えている。来年度やりたいということで、「万年筆」を出展したいという話を聞いている。地域の方、民間の方がやるということなら、市も支援していきたい。

[委員]

- ・はたして予算がつくのか疑問に思うが、2ページの市民病院の機能高度化、高度医療機器の整備は、病院がやるのではなく市が予算を組んでやるのか。病院の経営とすれば、ペイできなければ必要であったとしてもやめてしまう。

[事務局]

- ・市民病院の機能を拡充するということで、市で医療センターの整備を金沢医科大学と協力しながら実施していく。実施時期については、10年間で完結するものもあれば、着手までのものもある。財政的な部分も含めて今後判断していく。

[委員]

- ・それは予算の面で市が協力するのか。市が造っていくのか。

[市長]

- ・病院自身もそうだが、市が建設し、半分負担していただく。市も考えるが、金沢医科大学も経営として成り立つのかなど、実施時期、整備規模等を考えていく。

[会長]

- ・重点プロジェクトは、総合計画の計画期間10年間をみて、できるだけやりたいものが提示されたもので、後ほど議論していただく基本計画は当面5年をにらんだものである。そこでは、より具体的な予算措置などがついてくるが、重点プロジェクトではそこまでついていない、これからの検討課題なのかと思う。

[委員]

- ・2ページ「福祉機能の強化」ということで、福祉総合センター（仮称）の設置の検討について詳しく聞きたい。
- ・5ページ「心の健康づくりの推進」ということで、氷見は県内でも自殺者が多いほうだと聞いた。そのことについて、内容を具体的に説明してほしい。

[市民部長]

- ・2ページ「福祉総合センター（仮称）の設置」については、高齢者、障害者、母子保健など、いろいろな相談に対応できる窓口を設置したいという考えである。問題として、複数の課にまたがったものを一本化すればよいのかどうかも

含め検討していく。

- ・心の健康づくりについては、県平均よりも自殺の率が高い状況にあるため、そういう人をどうにか救いたいと考えている。見守り、相談につなげていく体制をつくっていくなど、啓発活動を行っていきたい。

[委員]

- ・11ページ「300万人」の話であるが、元気づくり部会の報告の中に「オール氷見」という考え方で地域資源ネットワークの構築という提言があり、これを受けて、オール氷見での賑わいの創出、あるいは広域的なネットワークの構築などの記載がある。プロジェクトがうまくいけばよいと期待している。
- ・11ページを見て思うことは、全体を通じて網羅的に考えてあるが、氷見にせつかくある資源をどう結び付けていくのか、今あるものを地域の方々が自信をもって出していく仕掛けがほしい。ちょっと、もの足りないという印象がある。
- ・「体験型観光」と書いたり、「着地型観光」と書いたり、言葉の使い分けについて聞きたい。
- ・13ページ「一村一品運動」ということで、新しいものを掘り起こしていこうというのは全国にも事例がある。ネギ、米、ハトムギなど氷見で現在ブランド化に取り組んでいる方々の気持ちを後押しするような表現になれば、市民のためのプランになると思う。

[企画振興部長]

- ・いろいろな仕掛けが書いてあるが、メリハリをつけて、既存のものを大切にしながら、300万の人に来ていただくということを考えている。
- ・体験型事業は、長坂の棚田での田植え体験や稲刈り体験などを指している。漁業体験も含まれる。着地型商品については、「〇〇へ行きませんか」ということで、東京、大阪などいろいろなところから「氷見へ来ませんか」という商品開発、プランを観光協会等で考えていただきたいと考えている。
- ・一村一品については、新しいものを考えるというより既存のもの掘り起こし、今あるものに再び陽が当たるようにしたいと考えている。氷見牛、白ねぎ、米などは、農産品のブランド力のアップ事業を進めたいと考えている。地域が考えているブランド化については、人的、金銭的にも支援したい。商標登録があってもよい。

[委員]

- ・基本目標に基づいて重点プロジェクトが作られていると思うが、4つ目の「持続可能な自治体経営の確立」についての重点プロジェクトはないのか。

[事務局]

- ・重点プロジェクトは、目指す都市像を実現する上で、そして今後のまちづくりを考える上で特に重要な10テーマを独自に掲げたものである。4つの基本目標は、市政全般についての目標を定め、そこから縦糸で市政の全分野にわたる政策、施策及びその基本的方向を定めたものである。基本目標から派生して重点プロジェクトを設定しているのではなく、市政全分野の中から特に重要なものを抽出したものである。

[会長]

- ・今の質問は、基本計画に絡む事柄でもある。今日のもう1つの議題である基本計画についても大きな課題であるので、基本計画に移らせていただいて、説明が終わったあとで、2つの議題について、ご質問、ご意見をいただくことにして、次の議題に入りたい。

[委員]

- ・どうしても、もうひとつだけ300万人交流プロジェクトの外国人のことで意見を言いたい。5年前に地域に根ざすビジネスプランということで、氷見に住む外国人の方に「日本で行きたい所」のアンケートを取ったら、1位は京都、2位は大阪、3位は東京ではなく秋葉原であった。その理由は、日本の文化である陶芸などを学びたいということであった。
- ・そのすべてが氷見市にはある。観光業等の振興のために商工会議所が行っている「夏の三冠王」や「冬の三冠王」の取組みには様々な体験メニューが含まれている。氷見市に8年住んでいる外国人の方がそういったことを一切知らないということにはショックを受けた。お金をかけずに、マンパワーでもっと周知すべきである。
- ・ヨーロッパでジャパニクルと言われ人気なのがアニソンだったり、コスプレだったり、秋葉原もそのイメージである。東京ビックサイトでのイベントには1週間に50万人、60万人の人が来ている。県内でもコスプレやアニソンのパーティーが開催されているが、彼らは「開催する場所がない」と言っている。

開催する場所さえあれば、人は集まる。あるのに活用されていないのがもったいない。

[会長]

- ・本件については、表現ぶりの問題もあると思うので、事務局でさらに検討していただくことにして、次の議題に移りたい。

(2) 基本計画（案）の検討について

（事務局より、「資料3 第8次氷見市総合計画基本計画（案）の概要」「資料4 第8次氷見市総合計画施策体系（案）」説明）

[会長]

- ・基本計画について審議に入りたい。ご質問を承りたい。

[委員]

- ・重点プロジェクトともかかわることであるが、「ケアネット21の促進」と「安心生活創造事業の推進」とあるが、この事業は表裏一体のものであると思っている。ケアネット21は21地区の社会福祉協議会で現在進められているが、これをさらにレベルを上げるという意味で安心生活創造事業に取り組みられている。
- ・安心生活創造事業は、国の事業を市社会福祉協議会が受託し、現在、朝日丘、久目の2地区で実施されているが、その成果はかなりのもので、国も期待していると聞いている。モデル事業なので今年度終了するが、継続事業として進めてほしいと考えている。
- ・今後各地区で事業展開するにあたり、大きな力となるのが21地区の社会福祉協議会であるが、資料3の4ページ「地域で支え合う福祉の推進」の項目の中に「21地区社協福祉行動計画の策定」とあるが、これを次年度の間にプランの策定を進めていただきたい。
- ・資料3の13ページ「乳幼児健康診査の充実」とあるが、乳幼児健診は現在1歳未満、1歳半、3歳児で行われているが、5歳検診が重要であると言われていいる。小学校入学児の2～3%の割合で自閉症の子がおり、これをチェックするには5歳ぐらいがよい。発達の経過を見ていく必要があることを親に告げることが重要である。小学校に入ってから発達障害と言われると、親も戸惑っ

てしまう。行動異常も、小学1～2年生で他の児童と差がついてはつきりすると、混乱する。個別の教育措置がなされると、ついていけるようになる。早く気が付いて、早く対応できるようにすべきだ。県や国の方針も考慮する必要あり、市だけで対応することは難しいとも思うが、子どもの教育という重要な課題であるので考えてほしい。

- ・6ページ「身体障害者相談員・知的障害者相談員の設置」には視力障害や聴覚障害者も含まれているのか。

[市民部長]

- ・情報によると、厚生労働省では名前を変えた新しいメニューで、独自化したものについては、予算がつくようである。詳しく内容を見ないとわからないが、ケアネット21をバージョンアップして、来年度も2地区のほかに拡大できないかと思っている。
- ・5歳児健診については、現在、継続事業で市内の各保育所を回って小児神経専門医、栄養士、保健師が保育中に障害がないか見守っている。5歳児健診ではないが、健康課と検討したい。
- ・相談員の設置については、今年度までは県でも設置されていたが、視覚障害者も対象に入っているとの認識だが確認させてほしい。

[会長]

- ・予定の時間がきているが、15分くらい審議時間を延長したい。

[委員]

- ・5歳児で見つけても、その後の対応、指導がなされていない。親はその子にどう接すればよいかわからない。インターネットで調べて、余計混乱している。見守りの際には、両親が困らないようお願いしたい。

[委員]

- ・先月末に、川崎市の阿部市長が市内を視察され、まちづくりについて石井知事と堂故市長と3者で会談したと聞いている。川崎などと連携していくことが重要である。
- ・今日の審議会も重要であり、市長にも大いにがんばってほしい。中央政界の混乱をいろいろ危惧している。政局も安定してもらいたい。

[委員]

- ・重点プロジェクトに入っていないなくても、5年間の基本計画にあれば事業になっていくのか。

[企画振興部長]

- ・総合計画には、基本構想10年間、基本計画は前期5年間、後期5年間、具体的に金額も入れた実施計画があるが、基本計画の中に全てを網羅して作っていく。その中で横断的に見て強くやっていくところを重点プロジェクトとした。基本計画の中の4番目の「持続可能な自治体経営」と横断的に関わっているものもある。

[委員]

- ・基本計画5ページ「企業・ボランティア等とのマッチングを行うシニア就業支援の充実」はよく読めばわかるが、短くならないか。
- ・7ページ「市民病院と市内医療機関との連携強化」に「役割分担」を追加していただくといい文書になる。
- ・「在宅当番医制の実施」は現在実施しているが、それを継続するのか。
- ・「在宅当番医（夜間休日診療）の広報」についての括弧内に夜間とあるが、夜間はやっていないので削ればどうか。

[市民部長]

- ・短い表現にできるか再考したい。
- ・「役割分担」を追加したい。
- ・在宅当番医制は、現在実施していただいております、継続的に実施していくという意味である。継続がわかりやすければ継続にする。
- ・在宅当番医の「夜間」は削除する。

[委員]

- ・6ページ「予防衛生事業の推進」は「感染症予防事業の推進」のほうが解かり易いのではないか。
- ・7ページ「地域医療連携の推進」ということで、市民病院の先生方と市内の先生方の顔が見える環境づくりを進めていただきたい。具体的にどう実現させていくかが課題であるが、今後ぜひ実現してほしい。
- ・子どもにやさしい、高齢者、障害者にもやさしい計画となっており、とてもうれしいが、働き盛りの人が元気が出る施策が盛り込まれるとよい。各産業の推

進は出ているが、それと雇用がわかるようになるとよい。

[会長]

- ・ 27 ページ「将来に夢が持てる雇用の創出」とあるが、これでは足りないというご意見か。

[委員]

- ・ 一般的で、目新しいものやインパクトがない。

[企画振興部長]

- ・ 例えば、「企業誘致の推進」の工業用地の取得・斡旋に「新たな」等の修飾語をつけるなどして、やる気がわかる表現にしていきたい。

[委員]

- ・ 現在、上田の工業団地では、こういうふうに移動しているという事例など、具体的に挙げればどうか。

[企画振興部長]

- ・ 書き方を検討する。

[会長]

- ・ 時間も15分ばかり超過した。毎回そうだが、この場で発言できなかったことは、事務局でいつでも答える体制にあるということなので、本日の審議は、以上で終了したい。

(3) 事務連絡

[事務局]

- ・ 重点プロジェクト（案）と基本計画の概要を検討いただいた。基本計画については、これにさらに文章、現状と課題、基本的方向を加えて次回の審議会に諮りたい。基本計画は、今回は概要として示しているので、ご意見・修正があれば、事務局まで連絡いただきたい。恐縮であるが、取りまとめの関係上、12月22日までに連絡いただきたい。
- ・ 次回の審議会については1月下旬に日程を設定し、重点プロジェクトの修正の報告と基本計画の報告をして、取りまとめとさせていただきたい。その上で2月中には基本構想及び基本計画の答申を頂戴できればと思っている。

5 閉 会

[会長]

- ・本日はご多忙の中、貴重な時間を割いて熱心なご意見をいただき、感謝申し上げます。
- ・委員の皆様には、良い年をお迎えになられるよう祈念申し上げ、会議を閉じさせていただきます。